

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4370101448 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 真光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 三和の邑 | | |
| 所在地 | 熊本市城山大塘4丁目1番15号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年11月9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年2月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社アクシス | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市八幡9-6-51 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の事業計画として、利用者の自立支援、個別ケアの充実、家族との連携、地域との交流を掲げている。具体的には、利用者の出来る事に注目し役割を持っていただき張りのある生活の支援、小グループによる外出援助や趣味を活かす場の提供等、毎日を退屈せずに楽しく過ごしていただく様、計画を立てている。又、法人の夏祭りや凧揚げ大会、餅つき、どんどやに参加し家族もお呼びし家族との楽しい時間の提供を行っている。毎月、発行する広報誌にて日頃の利用者の様子を写真などで報告し、個別にはお便りにて報告を行っている。事業所独自としても地域の方や小学生にボランティアをお願いし歌の慰問、昔の手遊び、ギター慰問等も行い又、地域の運動会や夏祭りに参加し地域との交流を行っている。法人として「一職員一地域貢献」を目標にお宮や公園の掃除、地域での買い物など地域への還元を図っている。

事業所は今年度の目標として、利用者の自立支援、個別ケアの充実、家族との連携、地域との交流を掲げている。中でも、“一日一日を張り合いのあるものにしてもらおう”という個別ケアの充実ではお茶を入れたり、料理のつき分けを行ったり、また米研ぎや食器拭き、台拭きなど、役割の支援に取り組んでいます。また、自分の好きな番組を鑑賞したり、好きな音楽を聞いたり、編み物などの趣味の時間を設けることで、利用者一人一人の楽しみごとの支援を行っています。また事業所は、自治会にも入会しており、地域の廃品回収や町内運動会、その他日常的な買い物や食事に至るまで、地域を意識した取り組みを行っています。町内会長や子供会などもとても協力的で、利用者との交流もさかんに行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人全体としての基本理念「三つの和」「利用者との和」「地域との和」「職員の輪」を掲げ、さらに事業所独自の基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を見やすい所に掲示し、管理者並びに職員がサービスの基本方針として共有し、又、事業所会議の中でも確認し合い意識づけを行っている。 | 法人の基本理念、事業所独自の基本方針と4つの目標をホール壁面に掲示しており、いつでも誰でも見れるようにしている。また、毎月の事業所会議の中でも、理念の確認を行っており、日々のサービスの中で実践できるよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 法人全体として、「一職員一地域貢献」を目標に地域との交流を図っている。事業所独自の取り組みとしては、地域の廃品回収への参加、町内運動会、夏祭りの参加、地域商店会での買い物、レストランでの食事、施設まわりの散歩等を通して地域の方との交流に努めている。又、小学生や地域の方へボランティアをお願いし慰問に来ていただいている。 | 事業所として、自治会にも入会しており、お宮や公園の清掃、また子供会が行う廃品回収などにも参加している。子供会とはこれが縁で、事業所の夏祭りにはボランティアとして参加してくれるようになっているようである。利用者の皆様も楽しみにされているようである。また、法人全体としても、「一職員一地域貢献」運動を推進している。職員一人一人が理念の実践に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議等の機会をとらえて認知症についてや、それぞれの介護施設の特徴についてなどの勉強会を行っている。運営推進委員の交代の機会も多くしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回、会議を行い、本年度の事業計画に基づいた活動報告や利用者の状況報告、認知症の勉強会等を行っている。外部評価、実地調査、本年度の取り組み目標の報告を行っている。又、委員さんより地域の状況、活動について教えていただくことでサービスの質の向上に繋げている。 | 運営推進会議は2ヶ月に1回行われており、メンバー構成は自治会長、民生委員、コミュニティセンター職員、地域包括支援センター職員などとなっている。内容としては、事業所の活動報告や利用者の状況報告、また事業所が地域貢献の一環として取り組んでいる認知症の勉強会や、介護施設の特徴などについての勉強会なども行っている。また事業所の方針として、メンバーは2年毎に交代しており、メンバーからは会議に参加して、初めて知ったことがあり良かったなどの意見もあるようである。 | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市主催の集団指導やグループホーム連絡協議会、介護相談専門員を受け入れ、施設意見交換会等に参加し、担当者より現況や指導を受けている。不明な点等は、その都度市の担当者へ連絡し指導を受けている。 | 運営推進会議への市の担当者の出席はないが、介護相談専門員を受け入れや集団指導、また介護相談専門員受け入れ事業所の意見交換会などに参加し、協力関係を築いている。運営上分からない点や判断に迷う点があれば、その都度、担当部署に連絡を入れ、指導を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するために勉強会や話し合いを通して、学習するようにしている。又、日頃から拘束しないケアに努めている。 | 勉強会や話し合いを繰り返すことで、身体拘束のないケアの実践に努めている。また、法人主催の勉強会やグループホーム合同の勉強会も行われており、グレーゾーンや困難事例の対応などについても話し合いが行われている。職員からは時には介護側の都合を優先させてしまって反省したり、不用意な言葉掛けに注意するよう心がけているという話が聞かれた。 | 自分ではそんなつもりは全くなかった、廻りから指摘を受けて初めて気づくということはよくあることだと思います。お互いの気持ちを忌憚なく、発言できる雰囲気づくりに一層努め、より質の高いケアの実現を目指して欲しいと思います。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年に1回勉強会を行い、法令について学んでいる。又、現場でも日頃からどうかが虐待につながるか等、について職員で話し合い、注意している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 関係諸機関との連携により、必要な方には、窓口を紹介している。過去には成年後見制度を利用していた方がいたが、現在は、いない。今後も研修会に参加し学習会等に取り入れていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入退所日に必ず家族へ契約内容等の説明を行い、同意を得たうえで署名、捺印もっている。又、家族の疑問、希望、納得を得る様に心がけている。 | | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 市の介護相談専門員が毎月訪問され、指摘されている内容を運営に反映出来る様に取り組んでいる。又、利用者情報を職員が共有出来る様に申し送り帳とケース記録に記載している。家族の意見は、家族会などで質疑応答の時間を設け又、面会時にも出来るだけコミュニケーションを取り把握するように努めている。又、法人内に第三者苦情受付窓口を設置し事業所内にも意見箱を設置し対応している。 | 事業所では年に2回、家族会を開催している。1回目は5月に父母の会として、もう1回は12月の忘年会である。その際に、質疑応答の時間を設けており、意見や要望の聞き取りを行っている。また、日頃の面会時にも、できるだけコミュニケーションを取るよう心掛けており、直接的ではなくても、こういうことを言いたいのでは？などと感じることもあるとのことであった。また、利用者本人の意見については、毎月、介護相談専門員の受け入れを行っており、そこで聞かれた意見を運営に生かすようにしている。 | 家族の立場からすれば、なかなか本当の気持ちは言いにくいと思います。その辺を理解したうえで、これからも謙虚に、耳を傾ける姿勢と、何でも言える雰囲気づくりに取り組んで欲しいと思います。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 法人内の運営方針に基づき、職員間でチームの年度目標を設定し、実践している。又、毎月の会議の中で、担当制による意見交換を行い、改善すべき点は改善に繋げ全員の意見が出せる様にしている。 | 毎年度、事業所としてのチーム目標を設定しており、その中には、職員の考えや意見が盛り込まれている。また、これまでに職員が話し合っケース記録の書き方を改善したり、現に今も改善要望案件が出ているようである。職員の聞き取りからも、意見の言い易い雰囲気であることが分かった。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各自目標管理シートを作成し、チーム目標、個人目標を設定し、それが達成できるように互いにサポートしている。又、日頃から現場の勤務実態、努力、実績、悩みなどを観察し、必要に応じて直接面接し把握できるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内研修や定期的な経験年数、職種や地位別に行われている職員研修に参加したり、自己研磨に努めたりしている。外部研修に参加する機会も与えられるので情報共有のため会議内、法人内で発表するようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 3ヶ月に1回、三和校区合同グループホーム会議や同法人内にあるグループホーム3事業所の合同会議に参加し、情報交換やサービスの質の向上に向けた勉強会を行っている。又、グループホーム連絡協議会にも参加している。 | | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前に本人との面接を行い、アセスメントを摂りながら情報把握に努め、安心して入所していただけるような環境づくりを行っている。又、家族や担当のケアマネージャー、ソーシャルワーカーとの連携を取り、利用者の生活スタイルを継続出来る様にしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 電話での相談や、入所前に自宅や利用施設を訪問しご家族の要望や思い、サービスについての意見など、傾聴する機会を作っている。又、事業所の介護方針、サービス内容をよく説明し十分に理解していただく様に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームの見学を勧め、何度も来所して頂き、実際の様子を見てもらっている。又、必要に応じて他のサービス事業所や市の窓口、包括支援センター、他のグループホーム等の情報も提供している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の意志を確認しその思いを尊重している。又、本人の能力を発揮できるような環境づくりを行い、出来る事は極力本人に行っていただける様にしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来やすい雰囲気作りを心がけており衣替えや通院同行を行ってもらう様に働きかけている。面会の際は日頃の状態を報告している。誕生会に参加の声掛けをし又利用者が家族に会いたい電話したいと言われる時はその都度、橋渡しを行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得て、友人、知人が来所しやすい様に支援している。又、家族による馴染みのパーマ屋の利用、墓参り等を行っている。利用者の地元めぐりのドライブ等も行っている。同法人内を利用されている友人の訪問等もあっている。 | 家族の協力を得て、馴染みの美容室を利用される方や墓参りをされる方がおられ、同法人のケアハウスやデイサービスからの訪問もあり、昔から関係継続を積極的に支援している。職員からも、「来られた喜ばれます」「面会ありがとうございます。またお待ちしております。」など、家族が面会しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる様子が伺えた。 | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の相性等に応じてテーブルの席を考慮し、利用者の居心地の良い場所の提供に努めている。又、他の利用者の下膳をお願いしたり寂しい時の話し相手になっていただいたりお互いが助け合えるように働きかけている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 状況に応じて手紙を送ったり、入院、入所先を訪問したりして様子を伺っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人に直接聞き、確認しづらい時は言葉や行動の中からくみ取り、ケアに活かすように努力している。本人から確認が困難な場合は、家族から話を伺い、又、職員全員で検討し本人の想いに近づける様に努めている。 | 本人から聞き取るようにしているが、困難な利用者の中には、家族の協力を得たり、また日々の関わりの中で利用者が発する言葉や、行動の中から思いや意向の把握に努めている。職員からは利用者の微妙な表情を見逃さないようにすることや、思うようにならないことがあるとイライラするなどの特徴をつかみ、全職員で話し合い、本人の思いに近づける様に取り組んでいるとのことである。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前の生活歴を本人、家族、ケアマネジャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努め、暮らしの継続性の実現に努めている。又、入所後も機会をとらえ本人や家族に確認するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者の日常生活を職員全員で細かく観察し記録に残し、気づいた点を情報交換し本人の現在の姿を把握するようにしている。又、有する力が発揮できるように随時、アセスメントを行い生活リハビリに繋げ張りのある生活の支援を行っている。 | | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族を交えて担当者会議を行い、それぞれの意見を介護計画に反映させている。又、主治医と看護師と連携を取り、職員間でも事業所会議などで必要時にアセスメントを行い意見を取り入れる様にしている。 | 担当者会議を行い、それぞれの意見や要望が反映した介護計画を作成している。家族の参加については、無理な場合もあるとのことで、面会時を利用したり、電話による最終確認を行う場合もあるとのことであった。主治医や看護師との連携も行っている。モニタリングについては、3ヶ月に1回行っており、変化がある場合にはその都度行うようにしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、ケース記録や業務日誌にその日の状態や気づきを記入し、それに全員が目を通して情報を共有している。又、朝、夕の申し送りや情報を共有するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別の買い物、行きたい所への外出支援、緊急時や家族の事情による病院受診等、臨機応変に個別ケアを行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括センターの「マップ」によって地域資源を把握し、迅速に活用出来る様にしている。又、運営推進会議を通して、地域の人たちに協力をお願いして実情を知ったりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望を聞き、状況に合わせて適切な医療を受けられるように体制を整えている。又、近くに協力医があり、本人、家族、主治医と相談しながら受診を行っている。 | 本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医・専門医受診どちらも基本的には家族の付き添いとなっている。事業所の場合、近くに協力医があり、月に1回は往診を受けられたり、夜間の対応も可能だったりということで、今現在は利用者の全員が協力医をかかりつけ医としている。また、口腔外科や認知症の専門医を受診している方もおられる。 | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月に2回の訪問看護による健康チェック時に情報や気づきを報告しアドバイスを受けている。又、褥瘡の処置や爪切り、耳かき等、衛生面のお手伝いもして頂いている。又、特変時や緊急時も24時間体制にて報告・相談を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された場合、家族や医療機関と相談し、本人の状態を把握しながら出来るだけ早期退院出来る様情報交換を行い必要な時は家族を交えカンファレンスを行っている。協力機関の訪問看護を利用する等の関係づくりを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化指針を本人、家族に説明し同意書にて確認している。終末期の取り組みは行っていない。長期にわたる継続的な医療が必要になった場合は、他の介護保険施設や医療機関を紹介する等の処置を講じている。 | 事業所は、終末期の看取り支援については行っていない。重度化した場合の対応については、指針を作成しており、入所時に本人・家族に説明のうえ、同意書を取り交わしている。必要に応じて、他の介護保険施設や医療機関の紹介を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年、法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けている。又、事業所内でも防災訓練と同時に緊急時対応の訓練も行っている。法人本部備え付けのAEDの使用も可能である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 同敷地内に特別養護老人ホームがあり、避難誘導活動が出来る様に協力を得ている。又、消防訓練を年に2回、実施し1回は、地域の消防団に参加していただいている。水、食料品の備蓄も行っている。 | 消防避難訓練は年に2回実施しており、その内1回は地域の消防団の協力を得て取り組んでいる。去年の訓練では、消防団員3名が参加している。事業所には、同じ敷地内に特別養護老人ホームがあり、緊急時の避難誘導體制については、協力関係を築いている。非常時の備えについては、水や食料品を3日分程度、その他にも衣類やガスコンロなどを準備している。 | 防災の専門家は、訓練以上の力を発揮することは難しいと言っています。訓練の重要性、訓練に取り組む姿勢の再確認をお願いしたいと思います。また、地域の協力体制づくりについても、今一度話し合って欲しいと思います。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員採用時に守秘義務の説明を受けその後個人情報や記録等、プライバシーに関する物は、厳重に対応するように指導を受けている。又家族に対しては、個人情報の取り扱いに関して契約時に説明を行い同意を得ている。法人内や事業所において言葉使いや接し方の研修を行っている。又、日々のケアにおいても職員同士で確認し合う体制を取っている。 | 接遇に関する研修会が、法人、事業所それぞれで毎年行われている。職員の話では、利用者の気持ちに添ったサービスが人格の尊重に繋がるという話があった。特に注意している点は、トイレ介助時の声かけや入浴支援時の対応ということであった。個人情報の取り扱いについては、家族とは同意書を、職員とは誓約書を取り交わし、徹底に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一つ一つの行動の前に必ず声掛けを行い出来る限り本人の自己決定を尊重し、自分の力で行えるように支援している。又、選択肢を提供し選んでいただく等の工夫を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のペースに合わせた生活支援を行っている。又、認知症の進行により、意思決定が困難な利用者に対しては、行動や反応に応じて不快な思いをさせない様な対応を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者の好みを配慮して相談しながら行っている。美容では、定期的に訪問美容を利用し、本人の希望に添うようにしている。又、気持ちがうまく伝えられない利用者には、家族と相談しながら支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 個人の状況に合わせて、調理方法や盛り付け皿を使い分けている。食べたいものの希望を日頃から尋ねる様にしている。毎食時、必ず利用者のそばで一緒に食事を行い、準備や、片づけ等、声掛けを行い共に行っている。施設の裏に菜園があり一緒に収穫したり食卓に提供するようにしている。メニューは旬の物を取り入れる様にしている。又、同法人内の厨房の職員が兼務で食事作りに入り手作りおやつなどレパートリーが増えている | 事業所は、できるだけ自分の力で楽しく食事をしてもらうよう支援している。料理方法を工夫したり、固定して動きにくい介護皿を使用した盛り付けを行ったり、希望を取り入れたメニュー作りを行ったり、フライドチキンなどの外食も取り入れ、食事が楽しみなものになるよう支援している。お茶入や小皿へのつぎ分け、米研ぎ、台拭き、食器拭きなど、利用者にもできることは行ってもらっている。また、昼と夕方には、上下肢体操や口腔体操も行い、食欲増進に取り組んでいる。 | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日、毎食分の食事チェックを行い、水分不足の利用者は水分量のチェックを行っている。摂取状況にあわせ食事形態にも工夫をこらしている。又、月に1回、体重測定を行い、看護師や法人内の栄養士に相談して援助を行っている。献立表のチェックも行いバランスの良い献立を心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人一人の口腔内状態にあわせ訪問歯科より指導を受け毎食後、口腔ケアを行っている。又、そのために必要な備品も個人で揃えている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個人の排泄パターンや健康状態を確認するためチェック表を作成している。時間をみて声掛け、誘導を行いおむつ外しに心掛けている。又、手伝えることは最小限にして、自立に向けた支援を行っている。 | 排泄が完全に自立している利用者は1人のみで、他の方は支援や介助が必要のようである。手を挙げて知らせる利用者もおられるようだが、時間をみて声かけをしたり、見回すなどの固有のサインをもとに、トイレでの排泄を支援している。リハビリパンツや尿取りパットについては、形や機能を吟味した上で、利用者が一番あったものを使用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、排便のチェックを行い排便の状態を把握している。それにより必要な方は水分摂取にこころがけ食物繊維を摂取していただき、又、1日2回の体操を行い、なるべく自然排便が行えるように支援している。又、野菜中心でバランスの良い食事の提供をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の時間は午後2時から4時を予定し利用者の状態に合わせて週2回から3回の割合で支援している。その中でも入りたくない日は無理強いせず日にちをずらす等している。必ずマンツーマンで介助を行い、入浴をゆっくり楽しめる様に心掛けている。リフト浴を導入しており出来るだけ湯船に浸かれる様、支援している。 | 体力やその日の体調を見ながら、入浴支援を行っている。お湯については一人一人入れ替え、気持ちよく入浴できるよう支援している。職員の話では、まずは転倒がないように、またあまり長風呂にならない様に気をつけているということであった。日本の伝統文化でもあるゆず湯や菖蒲湯の支援も行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個人の睡眠パターンを把握し。夜間、安眠出来る様に1日のリズムを整えている。自由に居室にて休むことの出来る利用者は干渉せずに見守りを行っている。 | | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人の服薬されている薬の薬剤情報の冊子を作成し職員で情報の共有を行い薬に対する知識を高めている。症状に変化があった場合は、主治医に連絡し確認、報告を行っている。処方内容が変わった時は、記録に残し必ず申し送りを行っている。服薬介助においては、薬箱に様々な工夫を行い、3重のチェックを行い誤薬のない様に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 好きな番組を鑑賞したりホール内で好きなBGMが聞ける様に支援している。又、編み物クラブなど趣味の時間の提供を行ったり希望を聞いて買い物等の個別支援を行っている。又、歌やギター慰問などを受け入れている。季節のならわしや行事も取り入れ、利用者が主体となって楽しめる様に支援している。又、お手伝い等、自然に行えるように場面作りを行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、荘外行事等、外出支援を取り入れている。また、家族にお願いし外出できる機会を作ってもらうように声掛けを行っている。 | 訪問した日は天気もよく暖かったので、交代交代で散歩に出かけておられた。その日のスタッフの人数の問題や、利用者本人の体調、気候の問題でなかなか思うように散歩の支援がうまくいかないとのこと聞かれた。そういう中でも、買い物や花見、ドライブ、みかん山見物などの外出も機会を見つけて支援している。また家族の協力もあり、外泊や温泉、墓参りなどをされる利用者もおられる。 | 事業所は、車道からも離れ、空気もよく、芝生の運動場も隣接している。天気や気候の良い日などは、散歩だけでなく、日光浴なども取り入れてみてはいかがでしょうか。利用者の方のストレス解消などに繋がると思います。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、買い物が出来る利用者は1名だが管理は出来ないため家族の要望で財布ごと預かっている。家族との買い物の時に手渡している。その他の利用者は、家族の依頼により職員側で預り金として管理している。本人の希望する品物を購入出来る様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人から電話があった時やかかけたい時は取り次いでいる。手紙が届いた時は渡したり代読したり返事を書く手伝いをしたりしている。又、届いた手紙が紛失しない様に一緒に保管する等の手伝いをしている。 | | |

グループホーム 三和の邑

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 建物自体は施設的であるが季節感を出した装飾品を玄関や壁面に飾り工夫を凝らしている。利用者の写真や絵等の作品を飾り暖かな雰囲気作りに努めている。ホールは吹き抜けで解放感があり大きなベランダからは、景色が眺められる。台所も広く開放的である。トイレも車椅子が入る広さが2か所ありその他に1か所あり明るく衛生的である。 | 利用者が集われるホールはとても明るく、異臭などは全くない。壁面には、利用者の写真や作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、利用者の表情も穏やかで、隣りの方と会話しておられる様子なども見られ、落ち着いた暮らしの支援が出来ているようである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやリクライニングソファを置き自由にくつろげる空間があり安心して過ごせるように工夫をしている。テーブル等の配置も考え利用者同士が交流を図れるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 部屋には各自、今まで使用していた家具や生活用品を持ってきていただき、本人が居心地よく暮らせるように工夫している。 | 居室の基本的な設備は、洗面台、ベッド、空調機器となっている。寝具やタンス、生活用品については、使い慣れたものを持ってきてもらうようになっている。現在、仏壇などを持ってきておられる利用者もおられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 部屋の前に表札を置いたり、ドアの色を変えたりして利用者が分かる様にしている。トイレの前にトイレと大きく表示して利用者が自立して利用できるようにしている。バリアフリーであり足元の危険物はなくし導線の確保を行っている。 | | |